

産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 中村 清志

- I 開催年月日 令和 5 年 11 月 15 日（水）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 11 時 02 分
III 出席委員等 〔出席委員〕◎中村 清志 ○田中 勝文 新開 広恵
出町 譲 埜田 悦子 林 貴文
本田 利麻 福井 直樹 金森 一郎
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕 中川 加津代
〔副議長〕 酒井 善広
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
（堺 産業振興部次長・農業委員会事務局長が公務のため
欠席）
〔委員外議員〕 梅島 清香
〔事務局職員〕 笹島 永吉 高嶋 史恵 吉本 昌史
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

。米サンフランシスコ クラフトヴァレーフェアの結果概要（速報）について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示）

【米サンフランシスコ クラフトヴァレーフェアの結果概要（速報）について】

- クラフトヴァレーフェアは今回で 2 回目であり、取り組みとして「壁一面に描いた 5 市の地図に、来場者が自由に書き込める壁面アート」があるが、この壁面アートの意図と、実際に書き込んでいただいた方々の反応は。また、2 回目ということで、前回から継続して取り組んだ内容について工夫した点は。今回は本市職員も現地に行かれたようなので、所感等も伺いたい。

△ 壁面アートは、壁一面に描かれた日本地図の絵に、マジックで自由に意見を書き込んでいただく内容であった。フェアに参画している 5 市が日本のどの辺りにあるのかをイメージしていただくために、大きな地図で案内したところである。フェアの開催直前には、氷見市長がその壁面に赤い丸を記入され、5 市の位置がわかるようにしておられた。来場者からは 5 市を訪ねたいという意見をいただいた。工夫した点については、例えば氷見市からは海産物を売りたいという要望があり、今回は冷蔵設備を準備でき、冷蔵・冷凍の商品を扱うことができた。ただし、食品を販売するためには手続きに時間を要することから、実際はかまぼこやみりん干し等の海産物のサンプルを提供していた。現地に行ってみて、多くの方々が日本の文化に関心を寄せておられると感じた。まちなかでは日本酒が売られていたほか、寿司も人気であり店が点在していた。かまぼこについても、当初フィッシュケーキと紹介したところ敬遠されたが、持参したかまぼこは上にマスとブリが乗っていて寿司のように見えることもあり、売ってほしいとのリクエストがあった。他には、ビールグラスを出展したところ、サイズが小さいという意見をいただいたものの、当該製品は縁が富士山の形をしていてビールを注ぐと泡が雲海のようにになると紹介すると、非常に美しいと喜んで購入していただいた事例もあった。

○ 非常に興味深い話を多く聞かせていただき感謝する。来場者の中には、高岡が日本のどこにあるのか知らない方もおられたと思う。高岡の位置をイメージしてもらうための取組は、観光 P R の発想に近いと感じた。今回の結果を今後の参考にさせていただきたい。(要望)

○ 来場者数については、前は 5 日間で 3,812 人だったと思うが、今回は 2 日間で 1,045 人と減少している。3 回目の開催に向けての課題は。また、サンフランシスコ以外に開催を検討している都市はあるのか。

△ 先般、市長が訪米されフォートウェーン市においてビジネスの芽を作ってきた。まずはその足場を確固たるものにしていきたいと思っている。どのような手法で進めていくのかは今後の予算編成等の中で深めていきたい。その他の都市に関しても同様である。

△ 来場者数の減少の理由については、開催場所が前回と異なったことが挙げられる。前は人気ラーメン店の横のテナントを借りて出展しており、人の入込みが大変多い場所であったことから 3,800 人以上に来場いただいた。1 日あたり約 760 人が来場した計算となる。今回は、前回と同じ敷地内であったものの、2 階のやや人通りが少ない場所に出展した。2 日間で 1,045 人ということで、1 日あたり約 520 人が来場した。人通りが少なめではあったが、ボランティアスタッフに、サンプルのクッキーを配付して集客するなど頑張っていた。課題としては、氷見市のように食品を販売しようとする場合は許可が必要で、公的機関の手続きにかなりの時間を要することが挙げられる。また、本市においては前回と同様の売上げがあり、一定のニーズがあると感じているが、開催地であるジャパンセンターは 20 代～40 代の年齢層の方々が来られる施設で、いわゆる高額商品が来場者とマッチングしていなかったことから、マッチングに繋がる商品の検討が必要であると考えている。

○ 伝統工芸品においても新しいデザインの商品が次々と出ている。それらについても

新たな方面で、幅広く周知いただくようお願いしたい。(要望)

- テナントの場所によって来場者数が変わったとのことなので、今後はより多くの来場者に来ていただくために、良い場所を選択するよう心掛けていただきたい。(要望)
- これまでの開催を通じて、例えば商品を現地で継続して取り扱っていただくなど、商談が成立した事例はあるのか。食品の販売は手続きが困難なようだが、やはり販売しやすいのは食品だと思う。他市の事例も含めて伺いたい。
- △ 前回の開催後に、もともとアメリカで事業を展開しておられた飛騨市の日本酒の酒造メーカーに対して、商業施設から商品を注文したいという希望があり、令和5年度から100本単位で受注しているとの話を伺っている。また、南砺市の事業者に対しても、おかきをホテルで取り扱いたいという希望があり、5年度に受注に至っている。今回の開催にあたっては複数の問い合わせがあり、フェアに携わっていただいている現地の事業者を通じて交渉が進んでいる状況である。本市の事業者の商品については、来場者へのフォローアップや開催地周辺の事業者に声をかけ、新たな商品出展に向け交渉中である。

[都市創造部]

。高岡市道路除雪実施計画（概要）について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

2 その他について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【高岡テクノドーム本館の機能強化について】

- 県の令和5年11月補正予算として、高岡テクノドーム本館の機能強化に向けた調査費が数百万円程度見込まれるとの報道があったが、本市として把握している内容はあるのか。
- △ 当該報道については、県から正式に発表された内容ではなく、新聞社の取材に基づく内容であると思われることから、本市として見解を述べることは難しい。もし当該報道が事実であるならば、調査とは、令和5年9月議会において知事等が答弁された「本館のドーム機能拡充」に関してどのようなことができるのかを精査するためのもので、答弁内容の具体化を図るものだと思う。今後の議論を進めるにあたっての出発点となるのではと思っており、県においては引き続き、現在の基本計画とこれまでの議論の内容を認識いただき、別館の整備に向けて尽力いただければと思っている。
- 本市としては見守る形となるが、これまでの要望内容についてしっかりと進めていただくよう、本市から県へ依頼してほしい。(要望)

【米の品質について】

- コシヒカリ、てんたかく、てんこもり、富富富の一等米比率は。
- △ 一等米比率については農林水産省から令和5年9月末時点の情報が公表されている。

県全体の数値としては、てんたかくが 88.8%、コシヒカリが 43.6%、てんこもりが 85.4%、富富富が 95.1%で、うるち米全体で 56.8%となっている。なお、市町村別の数値は公表されていない。今後改めて数値が発表される予定であるが、例年、10 月以降は数値が上昇する傾向がある。本市の数値について独自に J A に聞き取りをしたところ、5 年 10 月中旬時点で、てんたかくが 91%、コシヒカリが 78%、てんこもりが 97%、富富富が 93%で、うるち米全体で 83%と、県平均よりも高めの数値となっている。

- 今年はコシヒカリの概算金が値上がりしており、その中で一等米比率が想定よりも高かったので少々安心した。概算金是一等米と二等米で約 1,000 円の差があり、加えて近頃の資材高騰等もあって農家は大変苦しい状況にある。本市では以前に資材高騰に対する支援をしたところであるが、もし他市において同様の支援の動きがあれば、本市でも再度検討していただきたい。(要望)

【農業の地域計画について】

- 10 年後の農地の担い手等を明確にする地域計画が、令和 5 年度から 6 年度にかけて全国の自治体で作られる予定とのことだが、本市の進捗状況は。
- △ 地域計画の策定にあたっては、概ね 10 年後の農地の在り方について、地域ぐるみで検討することとしている。これまでの動きとしては、27 地区を数地区に区分して 5 年 8 月に 6 回の事前説明会を開催した。説明会の前半は地域計画の概要や背景、必要性の説明をし、後半は地域の方々に集まっていただき意見交換会を行った。意見交換会では、今後における中心人物や、協議する場所や機会等について議論していただいた。その内容を踏まえ今後の協議の場を設定していきたいと考えている。5 年度は、27 地区のうち概ね半分の地区において地域計画を策定できればと思っており、12 月以降に協議の場を設けていきたい。
- 作況指数や一等米比率を見ても、農業を取り巻く状況は厳しいものがあると思う。国の方針として 2 年間をかけて地域計画を策定することになっているが、少しでも早く本市の状況を把握し、10 年後、20 年後を見据えた施策を本市独自で進めていただきたい。(要望)

【富富富の生産拡大について】

- 今年は高温で、コシヒカリよりも富富富の状況が良かったが、富富富を生産するためにはコンバインや乾燥機等の設備を全て変えなければならないなど、課題が多いと農家から聞いている。農業は J A が中心になるべきだとは思いますが、J A に頼るだけではなく、本市や県が率先して農業に対する支援を行うことも必要だと思う。県が富富富の作付面積を広げようとしている中で、県全体として設備投資等の支援が求められると思うが、本市としての見解は。県に一層の支援を検討いただくよう、本市からも依頼していただきたいと思っている。
- △ 今年は高温のため一等米比率が低い状況となっているが、富富富は高温に強い品種であることもあり、先ほど説明したとおり 90%を超える数値が出ている。県も富富富を推していきたいと動いておられる。本市管内には J A いなばと J A 高岡の 2 つの J

Aがあり、J Aいなばからは令和6年に富富富の作付面積を増やしたいとの意向を聞いている。ただし明確な数量はまだ把握できていない。J A高岡についても富富富の作付けを進めていきたいとの意向はあるものの、2年後からだと言っている。県からの支援等について動きがあれば、その機会に発表させていただきたい。

【転作について】

- 米の大豆や麦等への転作が進められており、私の住む地域でも麦の収穫率が非常に高くなっている。転作に対する支援にも力も入れていただきたいが、現状は。
- △ 米の価格の安定のためには転作も必要である。国からは「水田活用の直接支払交付金」が支給されるが、本市でも独自の支援を行っている。具体的には軟弱野菜やサトイモなど、J Aと協議を進める中で力を入れていきたいと考えた作物について、独自の補助制度を設けて転作を推進している。
- 市内では米以外の作物に力を入れている営農組織もあるようである。そちらを参考にして、今以上に売れる作物を作るという意識を持っていただきたい。米は作りやすいイメージがあるが、麦も作りやすいと言っている。積極的にJ Aと連携して転作を進めるよう指導いただきたい。本市が中心となって支援していただきたい。（要望）

【高岡古城公園の樹木管理について】

- 高岡古城公園樹木管理行動計画について、令和5年11月から作業を開始するとのことだが、具体的にいつから取り組むのか。
- △ 本日から開始している。天候の状況にもよるが、令和6年2月頃までを目途に作業を進めていきたいと考えている。
- 伐採した木は、市民会館の跡地をストックヤードにして置いておくと言っている。前回の本委員会では、市民会館の跡地にバリケードを設置している理由を質問したところ、史跡を調査するためとの答弁があった。また、令和5年6月定例会でも、市民会館の跡地をどうするのかという質問に対して、調査を実施すると副市長が答弁しておられた。これらの答弁の段階では、市民会館の跡地をストックヤードにすることは決まっていなかったのか。
- △ どの箇所の木をどの程度伐採するのかを、春先から先日までかけて委託業者と検討してきた。どのように作業を進めるのかを検討する中で、伐採した木の保管場所として市民会館の跡地を候補に考えていた。伐採できる木の本数や量がある程度判明したため、史跡の調査に支障がない範囲で一時的に活用させていただこうと考えている。
- 樹木管理の委託契約はいつ締結したのか。また、委託契約に係る仕様書はいつ作成したのか。仕様書を確認したところ、伐採した木については市民会館の跡地へ搬入して処分すると明確に書かれていた。
- △ 令和5年6月に契約締結しており、仕様書は委託業務の発注前に作成している。契約の詳細については後ほど個別に説明させていただきたい。
- 伐採した木はいつまで置いておく予定なのか。
- △ 作業は令和6年2月頃までを予定しているが、その後、希望される方々に伐採した木を配付することを検討している。配付が終わり不要になった木は処分する予定であ

る。

○ 配付とは、例えば薪ストーブでの使用等を想定しているのか。

△ 太い木もあれば細い木もある。薪の状態にまで細かくすることは難しいが、ある程度の大きさに切断した後に、希望者がおられれば一度見ていただいた上で持ち帰っていただく。残った木は廃材として処分することになると思う。

○ 先ほど、令和5年6月に契約締結したとの答弁があった。市民会館の跡地をストックヤードとして活用することは最近決定したようだが、市民会館の解体工事は令和4年度から5年度までの継続事業だったと思う。解体工事を進めている最中に、伐採した木を置くという話を進めていることは矛盾すると思うが、見解は。

△ 当然ながら、解体工事が終了してから木を搬入することとしている。伐採する木の量を確認して市民会館の跡地が適地であると判断しており、解体工事の終了を見越しながら仕様書を作成した。木の量や作業手順によっては、他の場所も検討しなければならないと考えていたが、市民会館の跡地で収まる見込みとなった。一定の手順を踏みながら進めてきたと認識している。今回の作業の流れとしては、三の丸付近の木を伐採し、その場で運べる状態にまで切断した上で、市民会館の跡地にて保存する。さらに枝葉を落として配付できる状態にした上で希望者に配付する。

○ 現時点で、小竹藪の辺りにも木が山積みになって置かれている。しかも木だけではなくコンクリート等も置かれており、どうしても廃材置き場のように見える。市当局にも現地を見ていただきたいが、その廃材の山が、日ごとに大きくなっている印象を受ける。市民会館の跡地をストックヤードにするにあたり、それらの廃材については置き場所を変更しないのか。

△ 市民会館の跡地の活用は、あくまでも一時的なものである。史跡の調査は2年程度かけて実施すると聞いており、調査が終われば跡地活用を進めることになると思う。その際は別の場所を確保しなければならない。ご指摘の内容については、どのような経緯で置いてあるのか、詳細を確認したい。

○ 小竹藪以外にも、様々な場所に廃材が置かれている。小竹藪が一番多く山積みされているが、射水神社の裏や本丸広場にもある。市民からも、なぜ廃材が置いてあるのかと疑問の声があるため、早急に調査して処分していただきたい。市民会館の跡地の活用が一時的なものであることは了解したが、木の伐採は今年だけで終わるわけではない。30年間かけて取り組んでいく中で、伐採した木を高岡古城公園内に留めておくことを、30年間継続していくつもりなのか。どこかの処分場に持って行って処分するという選択肢もあると思う。

△ 原則として伐採した木は処分する。あるいは先ほど説明したように、希望者がおられれば配付する。伐採した木をその都度運ぶことは非常に不合理で非効率であることから、ある程度の量が溜まってから運ぶのが良いと思っている。伐採したままの状態では運べないことから、少なくとも、枝葉を落として幹と葉の部分に区分けするための作業が必要になる。常設の場所を決めて作業できれば一番良いが、市民にも配慮して、支障にならない範囲で仮のストックヤードを確保しながら、木を細かくしたり枝葉を選別したりしてから随時運ぶことを検討している。伐採した木を30年間置いたままにすることはなく、毎年度内に処分することが原則である。本日から作業を開始

するが、足元が不安定で危険であることから、まずは下草をある程度刈り取ってから伐採に取り組んでいく。その際には、もし過去に伐採した木が周辺に置いてあれば、あわせて処分する。

○ 市民から市民会館の跡地のバリケードに関する問い合わせを受けることがあり、高岡大仏を見学した後に高岡古城公園に向かわれる観光客等の中にも、なぜバリケードがあるのかと内部を覗いている人がいる。美観形成の観点から、どのように考えているのか。

△ 自然の中に工事用のバリケードが設置されている状況は違和感があるとは思いますが、前回の本委員会でも答弁したとおり、美観を損ねるからといってバリケードを撤去して新たなものを設置することは不合理であり、バリケードを継続して使うことが基本になると思っている。伐採した木の搬入や史跡の調査にあたり、誰でも出入りできる状況は避けたい。現在の状態を続けていきたいと思っているが、今後どのように改善できるかは考えてみたい。

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（２８名）

産業振興部長	式 庄 寿 人	都市創造部長	赤 阪 忠 良
産業振興部次長	堺 啓 央	都市創造部次長	梶 本 敏 規
産業振興部次長	長 久 洋 樹	都市創造部次長	西 條 正 輝
産業振興部参事（兼務）	西 條 正 輝	都市創造部次長 都市計画課長	山 森 久 史
産業企画課長	今 方 順 哉	景観みどり課長	江 尻 典 世
商業雇用課長	中 川 正 人	道路整備課長	中 出 裕 嗣
観光交流課長	森 川 朋 子	土木維持課長	割 田 一 郎
農業水産課長	永 井 正 之	建築政策課長	氷 見 和 人
農地林務課長	横 山 太 一	営繕課長	井 林 哲 雄
みなと振興課長	車 忠 宏	福岡駅前土地区画整理推進室長	橘 茂 徳
地域振興交流課長	有 栖 友 広		
		上下水道事業管理者	黒 木 克 昌
農業委員会事務局長（併任）	堺 啓 央	上下水道局次長	五 十 里 康 夫
		上下水道局参事	川 渕 利 直
		総務課長	亀 岡 勝 彦
		営業課長	熊 本 敬 二
		水道工務課長	片 岡 利 行
		下水道工務課長	寺 井 義 則
		施設維持課長	高 林 隆